

地方空港を核とする 旅客の行動特性



空港研究部 空港ターミナル研究室 研究官 内門 光照

(キーワード) 地方空港、利活用、行動特性、広域流動

3.

成長力・国際競争力の強化

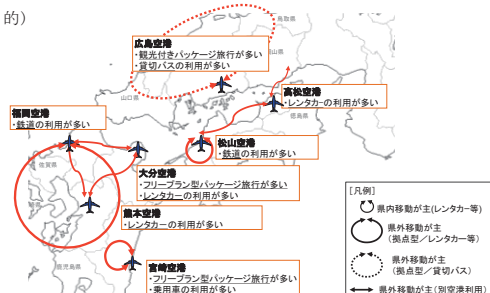
1. はじめに

地方空港においては、整備から運営、新設から既存施設の改良・利活用へとパラダイムが変化しているといえ、今後は観光振興・地域活性化等の新たな観点から空港や地域の特性に応じた空港の改良・利活用を図ることが求められてくる。そこで、空港間の連携方策について明らかにするため、従来から行われている航空旅客動態調査では把握できない広域流動の把握を目的に九州・瀬戸内における7空港（福岡空港、大分空港、熊本空港、宮崎空港、広島空港、高松空港、松山空港）で実施したアンケート調査結果をもとに、空港を核とする旅客の行動特性を分析したものを紹介する。また、地方空港において利活用方策を検討する際の調査手法も併せて紹介する。

2. 旅客の行動特性

アンケート調査結果から空港を核とする旅客の行動特性を分析した結果、空港によって、また旅行目的によって、旅客の行動特性は異なってくる。(図-1)

(観光目的)



(業務目的)



図-1 旅客の行動特性（観光目的、業務目的）

3. 空港ごとの利活用・連携方策の方向性

空港によって、利用者の旅行形態、行動範囲等は異なっていることから、それに応じた利活用・連携方策も異なってくる。特に県を越える広域流動の特性がみられた「観光目的」の利活用方策の方向性について、位置づけたものを図-2に示す。

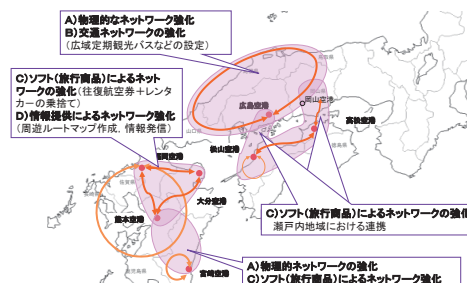


図-2 利活用・連携方策の方向性（観光目的）

4. 利活用方策設定のためのアンケート調査手法の提言

今後、地方空港においては、空港・地域ごとの行動特性を把握・分析した上で利活用計画を作成することが必要不可欠である。このための調査フローを図-3に示す。

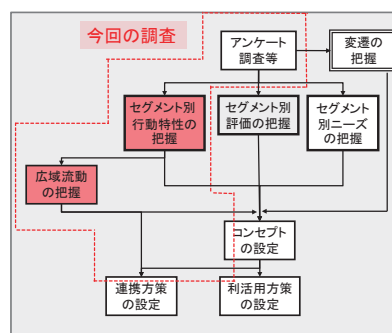


図-3 調査フロー案

5. おわりに

今後は、県を越えたネットワーク強化等がさらに重要となつてこよう。このため、利活用方策の設定、推進にあたっては、各自治体、空港関係者等と連携を図っていく必要がある。

【参考文献】

○国土技術政策総合研究所資料, No. 242, No. 374